

国際協力NPO  
ソーラーネット


中山泉さん



二〇一五年  
四月の地震で  
大きな被害を  
出したネパー

ルに、自然エネルギーの明かりを届けるプロジェクトに、電気技師としてボランティアで参加しました。

プロジェクトは、福島県いわき市で震災復興と地域づくり活動に取り組み「いわきおてんとSUN企業組合」が中心となって進めていて、ネパールには四月十八・二

 SDGs 国連が2030年までに解決を目指す持続可能な17の開発目標。本稿に書かれた目標は「すべての人々に、手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する」。

の明かりをつけるシステムの組み立て方を教えました。ソーラーパネルは、いわき市立菊田小学校の児童たちや埼玉県小川町で開いたボランティア講習会の参加者がつくったものです。

初日はバッテリーの容量やコントローラーの仕組みなどを説明した後、実際に組み立て。二日目は、組み立てたシステムを分解し、端子圧着の方法などを伝え、再びシステムを組み立ててもらいました。

システム完成後、「みなさんは、今日から「ムスレ女性電気チーム」です。リーダー、サブリー

## 被災ネパールに明かりを

十九日まで滞在しました。うち三日間は震源地のシンドゥルチョーク郡ムスレ村を訪問。一五年の地震では、石を積み上げて建てた村の家は倒壊しました。村は百二十五世帯ありますが、約一年後に復旧した電気を買うことができるのは一軒だけです。

村では地元の女性たちに、ソーラーパネルを使って、LED電球



ソーラーパネルを使ってLED電球の明かりをつけるシステムを作ったネパールの女性たち＝ネパール・ムスレ村で

ダー、部材担当、工具担当を決めてください」と村の女性たちに言いました。担当が決まると、みな恥ずかしそうな一方で、誇らしげでもありました。

村を離れる日の朝、前日に設置したシステムを見にいきました。メンバーそれぞれの家で明かりがつかまりました。リーダーからは「私たちは、システムの作り方が分かりました。協力して他の家にも明かりをつけます。見ず知らずの私たちのために、こんなに遠くまで来てくださったって、本当にありがとうございます」と感謝されました。

私がムスレ村を訪れるのは初めてでした。訪問前は、受け入れてもらえるのかとても不安でしたが、この言葉を聞いて涙がこぼれました。

※この連載は、NPO法人JKSKによる『結核プロジェクト』の協力を得ています。